

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	岩間支援教室		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		～ 令和8年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 4月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の作成においては、アセスメントをもとに子どもや保護者のニーズを整理し、職員間で共有した上で支援を実施しています。 今後も、事例検討や外部・内部研修の機会を活用しながら、より専門性の高い支援の提供を目指してまいります。	室内での活動だけでなく、公園での外遊びなども取り入れ、子どもたちが体を動かしながらのびのびと過ごせる機会を大切にしています。 活動内容についても固定化しないよう工夫し、楽しみながら成長につながる支援を行っています。	支援自体は適切に行われている一方で、「何をどのように行っているか」が伝わりにくい部分も見られました。 今後は、具体的なエピソードや目的を交えながら説明するなど、より分かりやすい情報発信を行ってまいります。
2	送迎時の対話や連絡ツールを通して、日々の様子を共有し、保護者の皆様とお子様の状況について共通理解を持てるよう努めています。 今後は、支援内容やその意図についてもより具体的にお伝えすることで、さらに安心してご利用いただけるよう取り組んでまいります。	子どもの特性や状況に応じて、個別での関わりと集団での活動を組み合わせながら支援を行っています。 それぞれの場面で必要な力が身につくよう、柔軟に対応しています。	クールダウンや気持ちの切り替えが必要な場面に対応できるよう、パーテーションの設置などを含めた環境整備を進めていきます。
3	支援前後の打ち合わせや日々の振り返りを通して、職員間での情報共有と連携を図っています。 また、PDCAサイクルを意識した業務改善を行い、支援の質の向上に努めています。 今後も職員同士のコミュニケーションを大切にしながら、より良い支援体制の構築を継続してまいります。	日々の支援内容や気づきを記録として残し、職員間で共有することで、支援の継続性と質の向上につなげています。 また、通信や面談等を通じて保護者の皆様への情報発信も行っています。	地域のイベントや交流活動への参加を通じて、社会とのつながりを感じられる機会を増やしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	施設内の段差や構造面において、子どもにとってより安全・快適に過ごすための改善の余地があります。	既存の設備や構造により、空間の使い方やバリアフリー対応に制限が生じています。	スロープの設置や空間の仕切りなど、安全性と過ごしやすさを高めるための環境づくりを進めていきます。
2	他児童や地域との関わりの機会が十分とは言えず、外部とのつながりが限定的になっている部分があります。	日々の支援に重点を置く中で、地域交流や新たな取り組みに十分な時間を確保しにくい状況があります。	支援内容や目的を具体的に伝えることで、保護者の皆様にとってより理解しやすい情報提供を行います。
3	支援の質自体は評価されているものの、その具体的な内容や意図が十分に伝わっていない場面があります。	情報共有は行っているものの、受け手にとって分かりやすい形での発信に改善の余地があります。	地域との交流機会を増やし、子どもたちの経験の幅を広げるとともに、地域に開かれた事業所運営を目指します。